

V 誌上発表指導案

■誌上発表1

1 研究主題 歩く広告（モダンテクニックを使った手提げ紙袋デザイン）

2 提案者 墨田区立文花中学校 教諭 深見 響子

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

モダンテクニックと構成美の要素を学んだうえで、それぞれを必ず一つずつ以上用いて様々な商品の広告を手提げ紙袋にデザインする。始めに既製の商品のパッケージを生徒がまず鑑賞し、デザインの構成要素が消費者にどういったイメージを持たせようとしているのかを考えさせる。その後で生徒がどのようにすれば商品のイメージをより強調することができるかを新たな視点で考え、紙袋という形におきかえてデザインする。

パッケージが様々な色彩と形の組み合わせからできており、そこから生まれる視覚的効果は、日常生活において多くの人々に情報＝メッセージを伝えているということに気付かせる。そしてその要素を自分の作品に取り入れ、結果として分かりやすさと美しさを表現＝発信できる喜びを感じさせたい。

今回は情報量のある程度制限するために立体としての形は紙袋として統一し、平面上での形（構成美の要素を生かして）と色彩で考えさせることとした。また、描写を得意としない生徒にも一定の完成度につながるようにモダンテクニックを使用させることとした。毎年モダンテクニックはどの生徒も楽しく授業に臨んでいる。美術において楽しさも重要な要素であり、それが今後の彼らの学習への関心・意欲に影響していくと考える。

4 学習の目標

- (1) デザインを構成する要素が、情報を伝えるために重要な役割をもつことに気付く。
- (2) モダンテクニックの技法を学び、見る人の印象を考えながら制作に活かす。
- (3) 商品イメージにあわせて技法を工夫すると同時に形や色の効果を生かす。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 伝える、使うなどの目的や機能を考えてパッケージに関心を持つことができる。
 - ② 積極的にモダンテクニックの技法等を学習し、その美術的効果を意欲的に制作へ試みることができる。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 構成美の要素とモダンテクニックの技法を理解し、目的や条件などを基に自分なりにイメージしたデザインにあわせて技法を用いることができる。
- (3) 創造的な技能
 - ① 学習したモダンテクニック技法を活用して、用具を適切に用いて紙袋に彩色することができる。
- (4) 鑑賞の能力
 - ① パッケージから色や形の情報を読み取ることができる。
 - ② 作品の鑑賞を通して表現の多様性を理解し、感じ取ることができる。

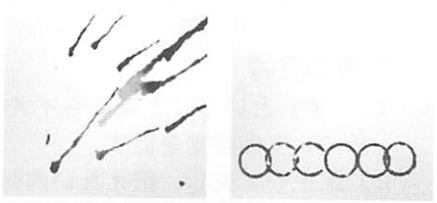
6 学習計画（全13時間）

(1) 用具・準備

- ① 材料 手提げ用紙袋（白色） パッケージ 画用紙 厚紙 コラージュ用雑誌
- ② 道具 金網 ブラシ スタンピング用具 マーブリング彩液 バット
筆記用具 ポスターカラーセット のり はさみ
- ③ その他 参考作品 プロジェクタ ロールスクリーン 資料集「美術資料（秀学社）」
プリント（構成美の要素、下描き用、鑑賞用）

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意事項
一次	1	自分が持参したパッケージを鑑賞し、それが商品の広告としてどんな特徴と役割を果たしているかを考え理解する。 参考作品を見ながら、題材と作業手順の理解を深める。	パッケージの鑑賞を通して、色合いや文字、絵、形などからどんな印象を受けるかを考えるように指示する。それが商品を広告（宣伝）する上で重要な要素となっていることに気付かせる。 デザインの重要な要素となるモダンテクニックと構成美の要素を学び、それらを用いて手提げの紙袋をデザインする題材であることを説明する。

二次	1	プリントを用いて構成美の要素を学ぶ。(大きさの変化、重ね、シンメトリー、アクセント、リピーション) プリントに一つずつ実際に描いて練習する。	構成美の要素をそれぞれ解説し、生徒にはプリントに実際に描かせ練習・理解させる。記入後にプリントを回収し、生徒が理解しているかを最終確認する。
三次	2	『美術資料』を参考に見ながらモダンテクニックを学ぶ。(デカルコマニー、ドリッピング、スタンピング、スパッタリング、マーブリング、コラーージュ)	画用紙6枚すべてに氏名を記入させる。二つずつ説明しながら、生徒に実際にモダンテクニックを画用紙に練習させる。班ごとに用具を貸し出し、立ち歩きは原則させないようにする。 
四次	2	プリントに印刷された全員同じモダンテクニックに、そこから連想する言葉と絵を記入する。 (→拡大投影機で指導者が何名かを紹介) 前時まで練習したモダンテクニックを各自自由に選択し、そこから連想する言葉と絵を、直接記入する。(→拡大投影機でできるだけ全部のモダンテクニックを指導者が紹介)	モダンテクニックから連想する言葉と絵を考えさせることで、モダンテクニックを用いるとどのような効果があるのかに気付かせる。 (※2年生は1年生の時に5分間デッサンと同じ位置づけでアイデアスケッチを数回行っている。生徒にはそれと同じように考えて描くよう指示をする。) 各モダンテクニックの主だった効果を生徒の紙を拡大投影して全体で共有・確認する。
五次	3	前時の内容を活かして手提げ紙袋の広告デザインのアジアスケッチをプリントに描く。 制作の手順を考え、プリントに記入。	生徒が用意したパッケージの文字や写真等を材料に、モダンテクニックと構成美の要素を必ず一つずつ以上使って構成や装飾を考えて表現の構想を練る。
六次	5	紙袋への下描き、彩色。(モダンテクニック)	先に彩色(モダンテクニック)をした方がいい場合は下描きを後に行わせる。
七次	0.5	紙袋へのビニールかけ、紐通し。	カッターで内側と外側から紐の穴を開けさせる。刃物を扱うので安全面に注意させる。
八次	0.5	鑑賞(自己・他者評価)。使用したモダンテクニックと構成美の要素をどのような意図で用いたかをプリントに記入。友だちが作品を見てその意図を感じてもらえたかどうかを確認する。 制作のまとめ。	自分と友だちの作品を鑑賞し、さまざまな表現とその面白さを味わわせる。制作のふりかえりを行う。 自己の作品についてPRをしたり、友だちの作品について感想を発表し合い、作品の意図やさまざまな良さや美しさに気付かせる。 (言葉による発信)

